

# 春日山原始林保全再生事業の進捗状況

保全方針	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31/R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024) (案)	R7 (2025) (案)	達成目標・期間	
(1) 照葉樹林の良好な状態の維持 (植生保護柵の設置)		○5箇所の植生保護柵を 設置 (合計約0.33 ha)	○7箇所の植生保護柵を 設置 (合計約0.80 ha)	○20箇所の植生保護柵を 設置 (合計約1.70 ha)	○4箇所に植生保護柵を 設置 (合計約0.26 ha)		○保護柵のあり方の再 検討	○新規植生保護柵設置 箇所の検討	○「花山1-と-3」植生 保護柵実施設計	○「花山1-と-3」植生 保護柵設置 (約0.40 ha、総延長約236 m) ○「更新区1-は-1」植 生保護柵実施設計 ○新規植生保護柵設置 候補箇所の検討	○「更新区1-は-1」植 生保護柵設置 (約0.37 ha、総延長約203 m) ○新規植生保護柵実 施設計 (4箇所)	○ナギ数量調整実施後に3箇所の植生 保護柵を設置 (合計約0.11 ha、総延 長合計約242.5 m) ⇒設置面積の累計 約3.96 ha (総延長 約4,530 m)	○新規植生保護柵設置 (予定) ○新規植生保護柵設置候補箇所の検 討	○新規植生保護柵設置 (予定) ○新規植生保護柵設置候補箇所の検 討	●春日山原始林保全計画 (H27年度策定) 「植生保護柵の設置による保全面積の拡充」 計画策定から15年 (～令和13年)  ●年間0.25 haの植生保護柵の設置を目標 (令和13年 時点 合計約6.0 ha)  ※積極的に保全方針を実施する区域…春日山原始林 約222.4 haの内、約23 ha (全体の約10.2%、 面積はメッシュ分析に準拠した値)	
(2) 照葉樹林の多様性の維持 (植生保護柵による後継樹、下層植生等の保全)	○後継樹、下層植生等 の生育環境調査の実施						○モニタリング調査結 果の検証 (H25設置)	○モニタリング調査結 果の検証 (H26設置)	○モニタリング調査結 果の検証 (H27設置)	○モニタリング調査結 果の検証 (H28設置) ○モニタリング調査項 目・スケジュールの再 検討	○新規・継続モニタ リング調査の実施 (計 36箇所)	○新規・継続モニタ リング調査の実施 (計37箇所)	○新規・継続モニタ リング調査の実施 (計40箇所)	○新規・継続モニタ リング調査の実施	●春日山原始林保全計画 (H27年度策定) 「多様な植生の保全と種多様性の維持」 計画策定から15年 (～令和13年)	
(3) 後継樹の育成による文化財としての価値の修復			○後継樹種子の試験的 な種子採取、播種、苗 木の育成	○後継樹種子の試験的 な種子採取、播種、苗 木の育成	○後継樹種子の試験的 な種子採取、播種、苗 木の育成	○実施計画に基づく後 継樹種子採取、播種、 苗木の育成	○実施計画に基づく後 継樹種子採取、播種、 苗木の育成	○実施計画に基づく後 継樹種子採取、播種 (800個)、苗木の育成	○実施計画に基づく後 継樹種子採取、播種 (1,457個)、苗木の育 成	○実施計画に基づく後 継樹種子採取、播種 (841個)、苗木の育成	○実施計画に基づく後 継樹種子採取、播種 (3種10本)	○教育機関との連携による修復植栽 の実施	○実証実験の継続	○実証実験の継続	●春日山原始林保全計画 「育苗方法の確立、修復植栽方法の検証と後継樹育 苗の本格展開」 平成30年から30年間 (～令和30年)  ・後継樹育成実施計画 (平成29年度策定) における 5ヶ年の修復植栽実証実験の実施スケジュールの完了 …令和4年	
(4) 外来種ナンキンハゼの侵入の抑制		○外来種侵入状況調査 の実施			○ナンキンハゼ駆除マ ニュアル (案) の作成			○ナンキンハゼ生育状 況調査 (12.5 ha)	○ナンキンハゼ生育状 況調査 (15.0 ha)	○ナンキンハゼ成木駆 除の実証実験 (24本)	○ナンキンハゼ成木駆 除の実証実験 (11本)	○ナンキンハゼ成木駆 除の実証実験 (10本) ⇒原始林内で確認した成木70本すべ ての駆除の完了	○過年度駆除成木モニ タリング調査 (70本、予定)		●春日山原始林保全計画 「ナンキンハゼの駆除と駆除方法の確立」 着手から5年 (令和2年～令和7年)	
(5) 常緑針葉樹ナギの拡大の抑制			○ナギ数量調整の試行 実験	○ナギ拡大状況把握調 査 ○「春日山原始林にお ける常緑針葉樹ナギの 本格的な数量調整方法 (案)」の作成					○学識者へのヒアリン グの実施 ○数量調整実施方針の 決定、実施範囲の現況 把握	○ナギ数量調整実施計 画の作成 ○植生保護柵実施設計	○ナギ数量調整の実施 (実証実験)	○ナギ数量調整の実施 (実証実験) 拡大の検討	○ナギ数量調整の実施 (実証実験) 拡大の検討	○ナギ数量調整の実施 (実証実験) 拡大の検討	●春日山原始林保全計画 「ナギ数量調整に係る実証実験の実施」 着手から5年 (令和5年～令和9年)  ※ナギの多く生育する区域…約9 ha	
(6) ナラ枯れの拡大の抑制	○緊急を要する保全事 業の実施 (ビニールに よる被覆等)		○緊急を要する保全事 業の実施 (ビニールに よる被覆等)						○Aゾーンにおける薬剤 樹幹注入の実施 (大径 木57本)	○Bゾーンの一部にお ける薬剤樹幹注入の実 施 (大径木3本)	○Bゾーンにおける薬剤 樹幹注入の実施 (令和 2年～令和3年、56本)	○Bゾーンにおける薬剤 樹幹注入の実施 (令和 2年～令和3年、56本)	○Cゾーン及び未実施の 健全木 (大径木) への 薬剤樹幹注入の実施 ○Aゾーン2回目の薬剤 樹幹注入の実施	○Bゾーン2回目の薬剤樹幹注入の実 施 (予定)	○Cゾーン2回目の薬剤樹幹注入の実 施 (予定)	●春日山原始林保全計画 「ナラ枯れ対策の検証とナラ枯れ後の森林更新・遷 移に係る保全方針の検討」 着手から10年 (平成30年～令和9年)  ・薬剤樹幹注入2回目の終了 Bゾーン…令和5年 Cゾーン…令和6年
(7) 花山・芳山地区人工林の保全・利活用	○人工林に関する基礎 調査の実施			○保全・活用方策の検討		○航空レーザー測量 の実施			○楡皮採取 1.68 ha、365本 (902.5 kg)	○楡皮採取 0.91 ha、163本 (347.8 kg)	○楡皮採取 1.09 ha、68本 (136.0 kg)	○楡皮採取 0.45 ha、38本 (159.0 kg)	○楡皮採取 0.15 ha、35本 (137.0 kg)	○楡皮採取 (予定)	○楡皮採取 (予定)	●春日山原始林保全計画 「森林資源の利活用と方法の検討」 計画策定から15年 (～令和13年)  ・花山・芳山地区人工林における荒皮採取の終了… 令和5年 (予定) ・各エリアにおける黒皮の採取、県下の文化財への 活用
(8) 保全事業を円滑に実施し得る仕組みづくり		○春日山原始林を未来 へつなぐ会設立							○春日山原始林4K映像 の撮影	○奈良公園バスターミ ナル・レクチャーホー ルにおける講演会等の 開催	○奈良公園の自然に関 するワークショップの 開催 (奈良公園バス ターミナル、春日山原 始林を未来へつなぐ 会)	○教育機関との連携による実証実験 の実施 (市立飛鳥中学)			●春日山原始林保全計画 「関係機関・人材の連携・協働による人やシカとの 共生を可能とする森林保全方針の実施」  「保全事業の担い手の育成、保全事業の充実と継 続」  「調査結果など保全に係る基礎情報の一元化、デー タベースの作成、情報の発信」	
(9) 多様な主体の参画																
(10) 春日山原始林に関する基礎情報のマネジメント																
委員会・部会等の開催	○第1回委員会 ○第1回花山・芳山部会	○第2、3回委員会 ○第2回花山・芳山部会	○第4、5回委員会	○第6～9回委員会 ○第3回花山・芳山部会	○第10回委員会 ○ナラ枯れWG準備会	○第1、2回後継樹WG ○第1回ナラ枯れWG ○第11回委員会	○第3回後継樹WG ○第2回ナラ枯れWG ○第12回委員会 ○第4回花山・芳山部会	○第4、5回後継樹WG ○第13回委員会 ○第1回 3委員会合同 意見交換会 (春日山原 始林保全計画、奈良公 園植栽計画、奈良のシ カ保護管理計画)	○第6回後継樹WG ○第14回委員会 ○第2回 3委員会合同 意見交換会	○第7回後継樹WG ○第15回委員会 ○第3回 3委員会合同 意見交換会	○第8、9回後継樹WG ○第16回委員会 ○第4回 3委員会合同 意見交換会	○第10、11回後継樹WG ○第17回委員会 ※中止 3委員会合同意見交換会				